トウモロコシの種まきに挑戦する生徒たち

温かな自然と人情に触れ

修学旅行で農業を体験

東京の多摩市立諏訪中学校３年生98人が５月16日から18日まで、修学旅行で花泉町を訪れました。一行は、33戸の農家に宿泊しながら、田植え、野菜の種まきなど体験し、農業への理解を深めました。花泉町グリーンツーリズム推進協議会（風間邦敏会長）が、４年前から同校生徒受け入れに協力して行われているものです。

最終日のお別れ式で「農業の大変さが分かり、農家の皆さんとの触れ合いでとても温かい気持ちになった」とお礼を述べた生徒代表。受け入れ農家の人は「生徒の一生懸命な姿に元気をもらった」と話し、生徒たちとの別れを惜しんでいました。

上　色とりどりの大漁旗がはためく「ひこばえの森」に全国から約９００人が集まった植樹祭
左　大きく育つようにと丁寧に苗木を植える親子連れ

森ー川ー海でつながる

森は海の恋人植樹祭

森をはぐくみ木々と語る集い「森は海の恋人植樹祭」（室根町第12区自治会・牡蠣の森を慕う会主催）は６月３日、矢越山「ひこばえの森」を会場に催されました。気仙沼市のカキ・ホタテ養殖業者などで組織する「牡蠣の森を慕う会」が、漁民が山に植樹する活動として平成元年から始めたもので、今年で19回目。

開会行事では、「牡蠣の森を慕う会」の畠山重篤代表と第12区自治会の小岩邦彦会長があいさつ。小岩会長は「植樹祭を支えてくれる皆さんに提言いただき、次の世代につなげていきたい」と森、川、海とつながる生態系の保全活動を続けることの大切さを訴えました。

当日は晴天に恵まれ、気仙沼市の漁民、第12区自治会住民をはじめ、全国から約900人が参加。大きく育つようにと願いを込め、ブナやミズナラなど約800本の広葉樹の苗木を植樹したほか、これまで植えた木の成長を助けるための下刈り作業を行いました。作業終了後には、ひこばえの森の木々の様子を観察しました。

ふもとのひこばえの森交流センター・こっとんこでは、水車まつりが催されました。特産の矢越かぶを使ったカブぶかしや水車そば、山菜が販売されたほか、カキ、ホタテなど海産物の物産即売が行われ、訪れた人たちは山の幸、海の幸に舌鼓を打っていました。また、水車粉ひき実演や打ちばやし、七福神舞が披露され、まつりは大いににぎわいました。

大きく育ちますように

磐井川にアユ稚魚を放流

魚を介して川に親しみを持ってもらおうと昭和48年から続いているアユの稚魚放流が５月22日、磐井川の上の橋付近で行われました。あおば保育園児、釣り愛好家、漁業監視員、関係者ら約80人が参加し、体長７、８㌢の稚アユ２万3000匹が放流されました。

園児たちは持ち寄った小さなバケツにアユを入れてもらい、「元気で大きくなってね」と話しかけながらそっと川に放流。アユはアユ釣りの解禁される７月までに20㌢ほどに成長し、秋には産卵して約１年の生涯を終えます。

バケツの中の稚魚をそっと放流する園児

力を合わせ、斜面に植栽する地元の皆さん

田河津にアジサイの名所

地元住民が1200本を植栽

田河津字小沼地内には、義経伝説で知られる金売り吉次ゆかりの土地と伝えられている場所があります。その斜面30㌃に６月12日、地元住民約30人がアジサイ1200本を植栽しました。

植えたのは、白い花を咲かせる「アナベル」という品種で、土地を所有する中村精樹さん＝小沼＝が寄贈したもの。中村さんは「伝説のある土地なので何かしたかった。今後地域の人たちで管理していき、地域の活性化になれば」と話していました。早速今年の梅雨時期には花を咲かせるそうで、作業している人たちは地域の新たな名所となることを楽しみに植えていました。

一歩一歩踏みしめ山頂へ

川崎町民登山で和賀仙人岳へ

かつて山頂には仙人が住むといわれ、岩手と秋田を結ぶ険しい峠越えで知られた和賀の仙人峠。今年の川崎町民登山は５月27日、行われ、同町登山同好会の天童美喜夫さんと金今養子さんを講師に、北上市の仙人岳山頂を目指しました。

時折小雨がぱらつき、前夜の雨で登山道がぬかるむなど悪条件の中、急な坂道を悪戦苦闘しながらも、総勢22人の参加者は２時間半ほどで全員無事に山頂に到着。山頂は真っ白な霧で覆われ、頂上からの眺めを楽しむことはできませんでしたが、下山後は温泉につかり、心地よい疲労感に浸りました。

新緑の登山道を歩き山頂を目指した参加者

心を込めて生産された乾しいたけが多数出品されました

“自慢の逸品”が一堂に

第２回市乾しいたけ品評会

「第２回一関市乾しいたけ品評会」は５月30日から２日間、大東開発センターで行われました。色や形状、品揃いや香りに優れ、心を込めて生産された乾しいたけ86点が出展され、そのうち５部門で42点が表彰されました。

褒賞授与式では、実行委員会長の浅井市長が生産者に賞状を手渡し、「市は全国有数のシイタケ産地です。暖冬や春先の低温など栽培には厳しい年となった中、このように多くの出品をいただいた皆さんの熱意に敬意を表します」とあいさつしました。市のシイタケ生産量は県内一。森林内でゆっくりと原木栽培された乾しいたけは、肉厚で、だしも香りもたっぷり出ると評判です。

「早く大きくなーれ」

千厩高でサツマイモ苗植え

千厩高校（板宮成悦校長、生徒699人）生産技術科２・３年生39人は５月22日、千厩保育園（小野寺里子園長、園児98人）の５才児23人を招き、サツマイモの苗植えを通して交流しました。

園児たちは、高校生の指導でベニアズマという品種の苗約100本を同校農場に植えました。土を掘り苗を寝かせるように置くと、「土のお布団をそおっと掛けてあげてね」と高校生。「おいもさん、早く大きくなってね」と園児は語り掛けながら苗を植えていました。収穫の秋にサツマイモが大きく成長していることを願いながら、和やかな雰囲気で体験学習が行われました。

１本１本丁寧に苗を植える園児と高校生